

三人吉三 (前篇)

原作並脚色者 帝キネ時代映畫
 監督者 山上島
 撮影者 塚越成一
 主要役割
 お坊吉三 松本田三郎
 お嬢吉三 中村小郎
 和尙吉三 尾上紋十郎
 土左衛門傳吉 嵐上童十郎
 海老名典膳 片岡童十郎
 安森盛之助 尾上多見右衛門
 若徒彌作 林誠太郎
 安森源次兵衛 市川幅十郎



眞寫 「三人吉三」 帝キネ山下秀一作出品。右より松本田三郎と松枝鶴子。

娘綾 傳吉娘おこせ
 釜屋武兵衛 光秀
 操 さつき
 十次郎 茶屋の亭主
 典膳門弟 同
 同 同
 奥力 源次兵衛仲間
 刀屋番頭 法念
 乳母お松 やり手
 同 仲居
 同 同
 新造 同
 傳吉女房 同
 略筋——感藩の御留守居安森源次兵衛の娘綾は父親の眼を盗んで芝居見物に行つてゐたが不意に起つた火事騒ぎに、一座の娘形中村吉三實はお嬢吉三に連れられて逃れたが更に吉祥寺の所化辨長實は和尙吉三に扮がされて行方不明になつた。安森家にその憂ひのみなる折も折日頃源次兵衛に恨を抱く海老名典膳は辨長の父親の傳吉を頼んで安森家預りの重寶庚申丸を盗ませ、己は源次兵衛を銃殺して去つた。斯くて安森家は一日にして潰滅の一年を経て漸く或刀屋に庚申丸を發見し、それを手に入れんと百兩の算段をしたが、家出した兄吉三郎(お坊吉三)に逢ひ歸參を勧める折柄典膳一味との争に依つて金を落して仕舞つた。傳吉娘おこせはそれを拾つて後を追つたが、途中お嬢吉三に奪はれて川に突落された。そして百兩を中心にお嬢吉三とお坊吉三が争ふのを和尙吉三が仲裁に入り三人吉三は茲に義を結んだ。百兩の金は廻つて釜屋武兵衛の手に入った。そしておこせは無事傳吉に救はれたが、百兩の事を憂へつけてゐた。新吉原丁字屋に三人吉三の待つ全盛の花魁一重こそは和尙吉三に賣られた綾、即ちお坊吉三の妹なのであつた。悲喜交々の兄妹の對面の折典膳一味に訴へられ捕吏に圍まれて凄じい白刃の渦に卷込まれて行く。

松枝鶴子 松葉笑 中村延 實川二 尾上松次 嵐上橋 尾上仙三 中井三郎 柴田清三 高波之助 眞田信成 小坂信二 瀬川豊一 大和菊一 日府花子 別府梅子 石本節子 梅本綾子 中島久子 立宮花子 宮立千枝 園枝子